

清流を取り戻そう。。。①

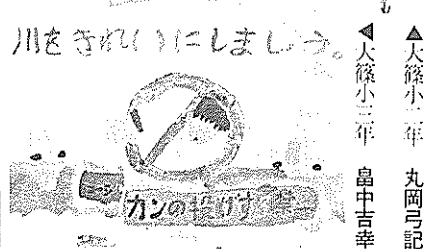
住みよい環境を 舟入川・新川の浄化を考える

▶大篠小六年 平井扶美



環境週間ポスター
入選作品

▶大篠小四年 松高梨佐



あなたです

きれいな川をつくるのは

不法投棄、台所や風呂などから出る生活排水、様々な原因で川が汚れています。

舟入川の一斉清掃、コイの放流など、舟入川をきれいにしようといういろいろな取り組みが行われていますが、行政や関係組織だけで川を守るのには不可能。市民一人一人の努力が美化運動を支えるのです。市では、十月に舟入川と新川の

流域の方に、台所から出る排水を少しでも浄化しようと水切り袋を配付しました。それによってどれくらい効果が上がるのでしょうか。今回の広報に具体的な数値をあげてみたいと思います。

水性生物による川の水質

水質	水性生物	BOD
とてもきれい	トビケラ、カゲロウ、カワニナ、ヤマノ、イワナ	2mg/l以下
きれい	マルタニシ、アユ、サケ、マス	3mg/l以下
よい	ヒメタニシ、ユスリカ(茶)、コイフナ、ナマズ	5mg/l以下
とてもよくない	サカマキガイ、ユスリカ(赤)、ミズムシ、イトミミズ	

舟入川の水性生物

採取場所	山田堰	篠原
採取された生物	カゲロウ トビケラ ユスリカ(茶)	ユスリカ(茶) ミズムシ イトミミズ

※BOD：生物化学的酸素要求量。水質環境基準の1つで、好気性微生物の入った水を20℃で5日間放置し、微生物が水中の有機物質を酸化、分解するのに要した酸素量。

みんなの協力と 努力で美しい川に シンポジウムを開催



舟入川をきれいにと約八十人が熱心に話し合った

舟入川、新川に清流を―をテーマに、第三回南国市の環境を考えるシンポジウムが九月二十六日、社会福祉センターで約八十人の衛生委員や流域の住民が出席して開かれました。

これは、市と市衛生委員連合会が主催して毎年開いているもので、今年は市街地を流れる舟入川と新川の美化を考えようとパネル討議などが行われました。

シンポジウムでは、北村衛生委員連合会長のあいさつの後、高知市環境課の佐竹さんらが鏡川、江ノ口川についての取り組みをスライドなどを使って紹介。江ノ口川市民会議の結成など、市民ぐるみでの取り組みを参加者は熱心に聞いていました。

続いてパネル討議に入り、舟入川をきれいにする会や南国市連合婦人会の代表者など七人のパネリストがそれぞれの立場で意見を発表。また、会場からも「捨てない、流さない、汚さないを目標に、市民全体の問題として運動を広めるように」など、活発に意見が出されました。

最後に、このシンポジウムの名前前で「川はそこに住む住人の心を映すと言われる、皆が一体となり、元の美しい舟入川、新川を取り戻そう」とアピールを採択し、閉会しました。